

コロナ禍における大学生生活の充実度とサークルの関係性について

新型コロナウイルスの影響で大学生生活は大きな変化を遂げた。それに伴い大学生の充実度も低下した結果が存在する。コロナ禍前ではクラブ・サークルなどの団体に所属している人のほうが、充実度は平均よりも高い例があり、また友人関係への満足が充実度に関係していることも例として挙げられた。しかし、コロナ禍での大学生生活の充実度とサークルの関係性について詳しく研究された例は見当たらなかった。

そこで、筆者はサークル活動がコロナ禍でも充実度に関係があるのかを明らかにすることを試みた。大東文化大学に所属する1年生から4年生の54名にGoogle Formを用いた調査票調査を2022年7月21日から2022年9月23日まで計20問を集計した。

アンケート調査により、現在の大学生生活の充実度は52.8%が充実している、47.2%は充実していないと回答を行った。充実度の要因として「楽しい時間を過ごすこと」「自分のしたいことが出来ていること」「幅広い人間関係を構築できること」が上位3つに挙げられた。

現在の大学生生活の充実度に49.0%はサークル活動が充実度に関わる人、50.9%はサークル活動が充実度に関わらないと回答を行った。サークル活動に所属することが大学生生活の充実度につながると考える人は71.7%がそう思う、28.3%がそう思わないと回答した。

カイ二乗検定を用いた分析を行った結果、現在の充実度と充実度の要因に強く有意性が現れたのは「幅広い人間関係を構築できること」「大学以外での学びや経験の機会が出来た」「楽しい時間を過ごすこと」の3つだ。

よって、大学生生活の充実度は先行研究と同様、「友人・対人関係」と「満足度」が大きく関わっている。しかし、「サークル活動」と「充実度」は、以前と比べて関係性が強いわけでは無いことが本研究から明確になった。